

株式会社 北洋銀行

会社説明会資料

東証プライム市場・札証

証券コード8524

2025年7月15日

取締役頭取 津山 博恒



本日のテーマ

- I プロフィール P.1～ P.5
- II 経営成績・株主還元 P.6～ P.10
- III 企業価値の向上に向けて P.11～ P.22

(ご注意事項)

- 資料には北洋銀行グループの将来の業績、経営目標などに関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は経営環境の変化などにより、予想と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。
- 北洋銀行以外の金融機関に関する情報は一般に公知の情報に依拠しております。
- 表示金額は特にことわりのない場合、表示金額未滿を切り捨てております。

I プロフィール

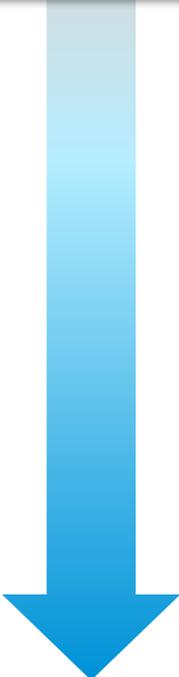
II 経営成績・株主還元

III 企業価値の向上に向けて

1. これまでの歩み

大正6(1917)年8月

北海道無尽株式会社として創立



昭和26(1951)年	北洋相互銀行に商号変更
平成元(1989)年	普通銀行に転換、北洋銀行に商号変更
平成10(1998)年	北海道拓殖銀行より営業譲り受け
平成13(2001)年	札幌北洋ホールディングス設立
平成20(2008)年	札幌銀行と合併
平成24(2012)年	札幌北洋ホールディングスと合併
平成29(2017)年	創立100周年
令和2(2020)年	新たな経営理念の策定

【経営理念】

お客さま本位を徹底し、

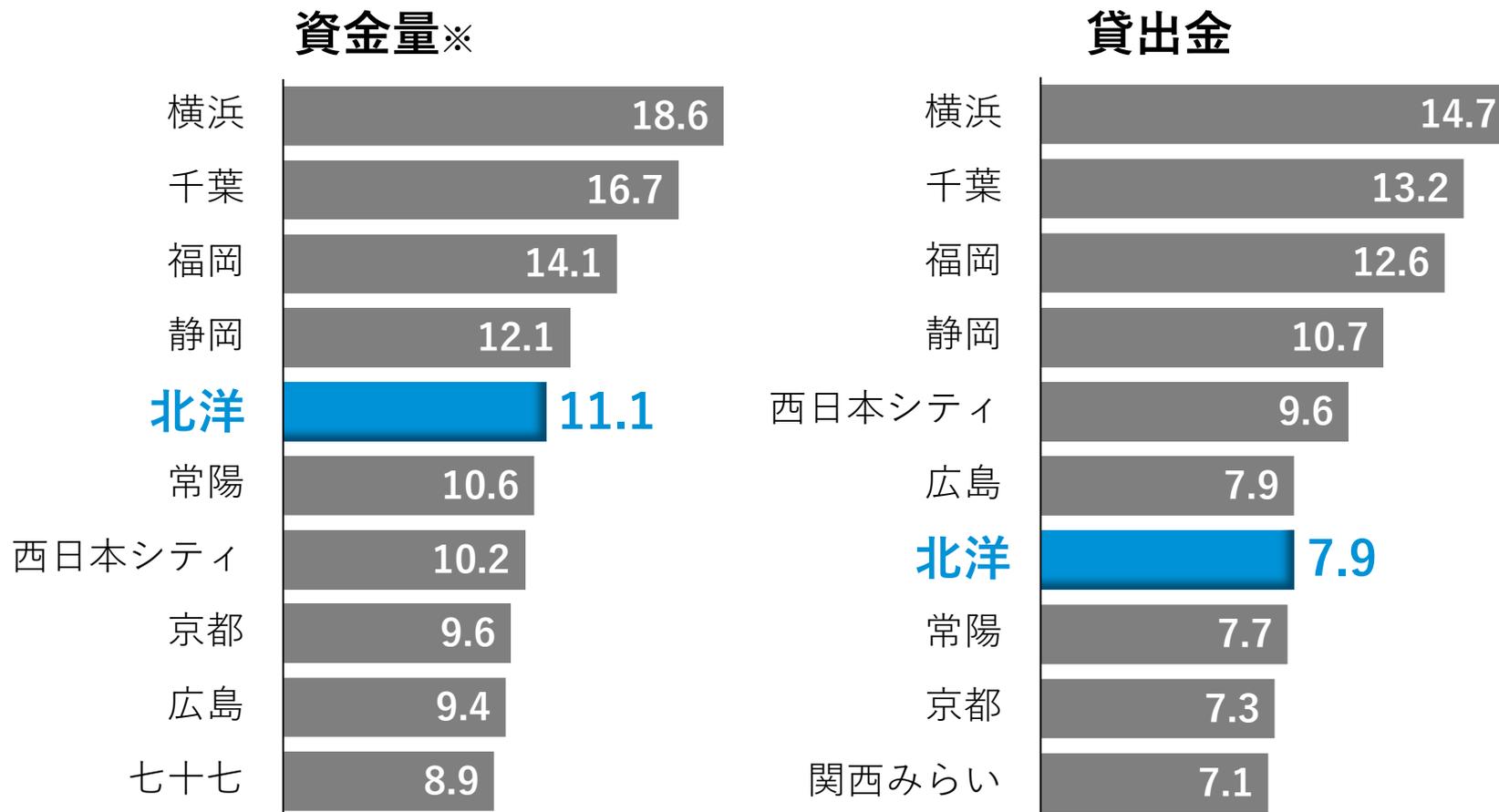
多様な課題の解決に取り組み、

あす
北海道の明日をきりひらく

2. 国内の位置付け

資金量・貸出金の規模は全国の地域銀行で5～7番目

2025年3月末現在（単位：兆円）



※資金量 = 預金 + 譲渡性預金

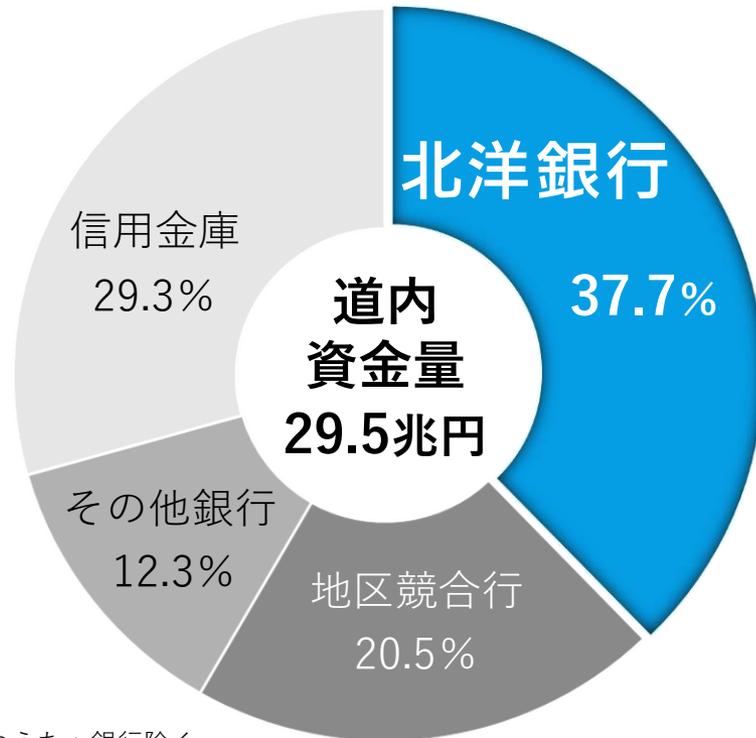
(出所) 各行決算資料

3. 北洋銀行の強み ～北海道内のシェア～

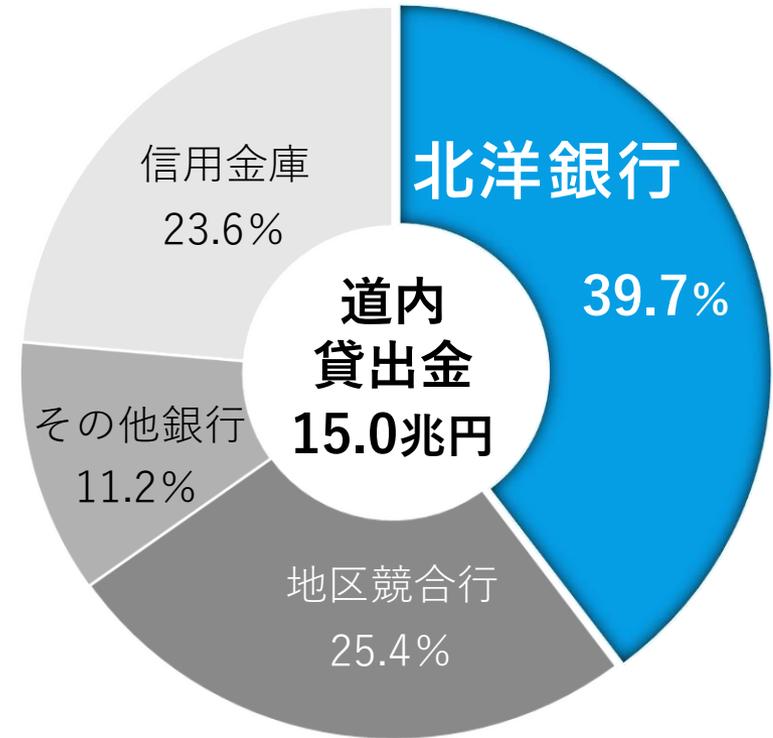
圧倒的な道内第1位のシェア

2025年3月末現在

資金(預金)量シェア※



貸出金シェア



※ ゆうちょ銀行除く

- ・道内に本支店のある国内銀行（ただし、ゆうちょ銀行、整理回収機構除く）および信金の残高に基づくシェア
- ・預金は譲渡性預金含む（道内信金の譲渡性預金については、全国の信金の譲渡性預金残高から推計）
- ・シェアについては切り捨てにより合計が100%になりません

(出所) 日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」、信金中金 地域・中小企業研究所「全国信用金庫概況」、「信金中金月報(速報値)」、各行決算説明資料等により推計

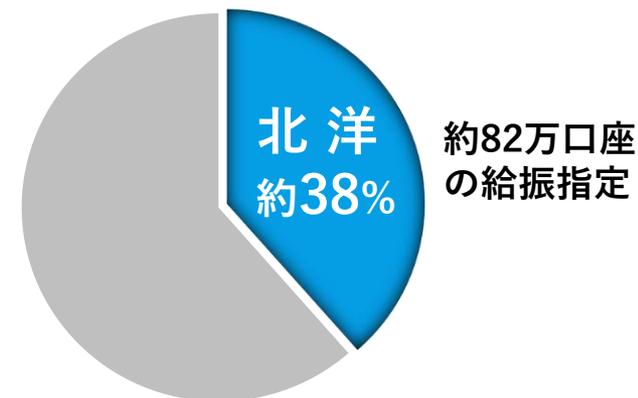
4. 北洋銀行の強み ~メイン取引~

メインバンク取引社数 地銀No.1

地域銀行ランキング

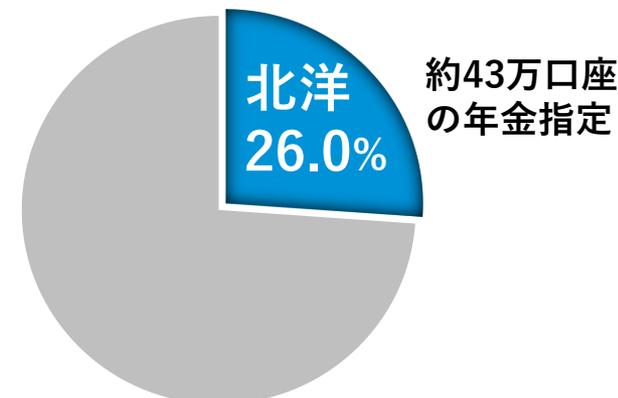
順位	銀行名	社数
第1位	北洋	23,795
第2位	福岡	22,580
第3位	千葉	21,435
第4位	西日本シティ	20,971
第5位	第四北越	17,963
第6位	横浜	16,748
第7位	静岡	16,744
第8位	広島	15,770
第9位	常陽	15,616
第10位	群馬	15,142

【道内給料振込みのシェア】



※令和3年経済センサスから道内従業者数より推定

【道内年金受給のシェア】



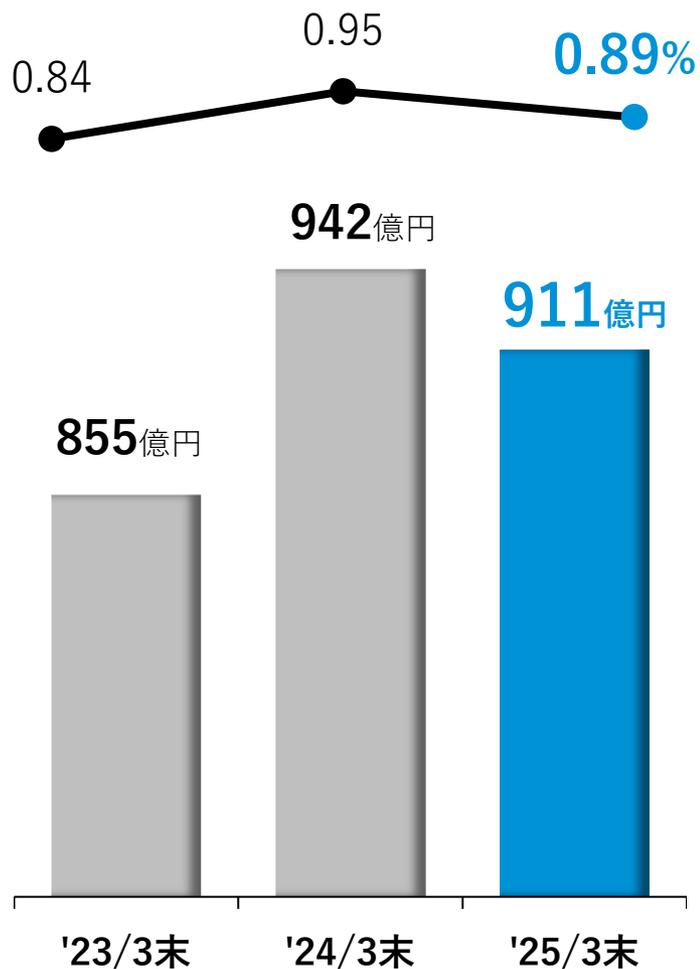
(出所) 帝国データバンク：全国企業メインバンク動向調査 (2024年)

※令和6年住民基本台帳から道内65歳以上人口より推定 4

5. 北洋銀行の強み ～財務の健全性～

不良債権比率は全国の地銀の中でも極めて低水準

■ 不良債権の推移



■ 地銀貸出金上位行の不良債権比率

順位	銀行名	不良債権比率
1位	静岡	0.78%
2位	北洋	0.89%
3位	千葉	0.91%
4位	広島	1.02%
5位	常陽	1.09%
6位	横浜	1.10%
7位	京都	1.28%
8位	福岡	1.39%
9位	西日本シティ	1.50%
10位	関西みらい	1.62%

I プロフィール

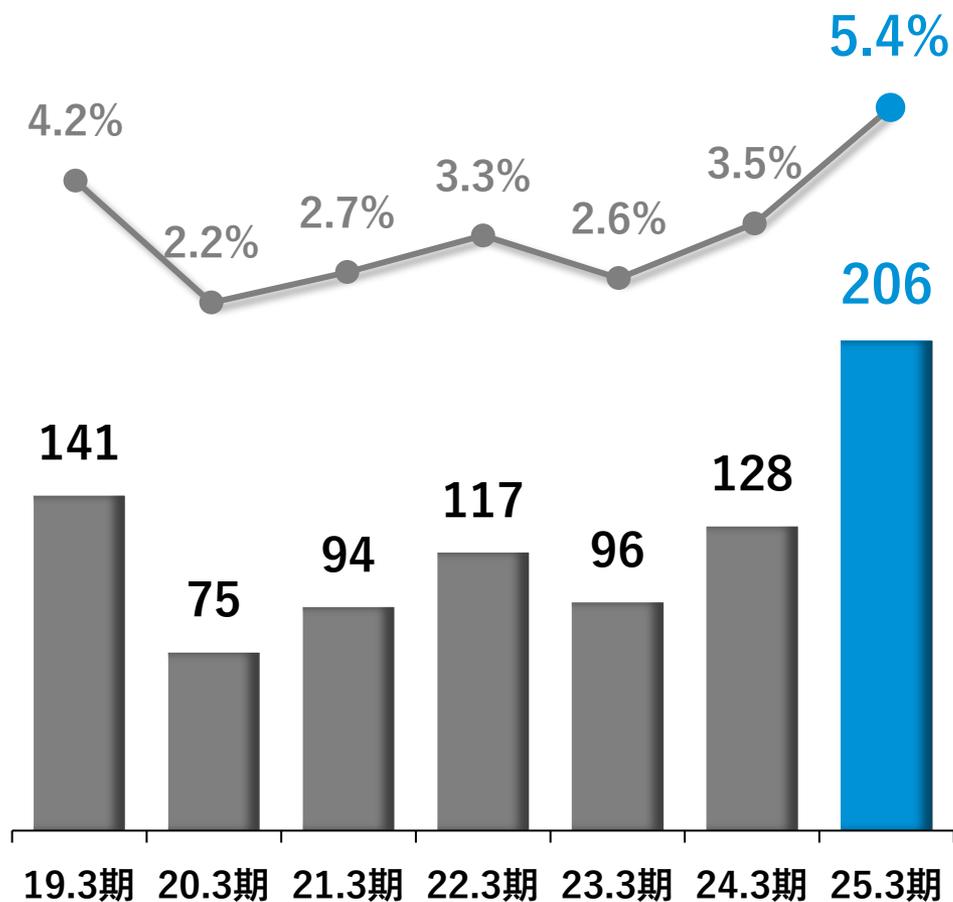
II 経営成績・株主還元

III 企業価値の向上に向けて

1. 決算ハイライト

増益決算、連結ROEは5%を達成

■ 連結当期純利益※1・ROE※2の推移



2期連続
増益

※1 親会社株主に帰属する当期純利益 ※2 株主資本ベース

2. 2026年3月期計画の概要

資金利益の増加を主因に前期比増益を見込む

【単体】	2025/3期 実績	2026/3期 計画	前年比
コア業務粗利益	934	1,013	+78
資金利益	795	894	+98
貸出金利息	671	849	+177
預金NCD利息 (▲)	67	179	+112
有価証券利息配当金	151	169	+17
役務取引等利益	121	108	▲13
経費(臨時処理分除く)(▲)	643	678	+34
コア業務純益	290	334	+43
信用コスト(▲)	30	40	+9
経常利益	266	336	+69
当期純利益	201	238	+37

増収増益
を見込む

3. 株主還元方針

配当性を上げ、四半期配当によりいち早く還元

株主還元方針

➤ 現事業年度（2026年3期）より適用

- 1株当たり年間10円の安定配当を維持しつつ、配当性を40%以上とする
- 自己資本比率の水準、業績見通しや外部環境等を勘案し、総還元性向は50%を目安とする
- 自己株式の取得は柔軟かつ機動的に実施する

四半期配当の導入

➤ 初回の基準日は2025年6月30日

基準日（第1四半期および第3四半期の配当基準日）は、都度取締役会にて決議し、公告

株主還元の実績

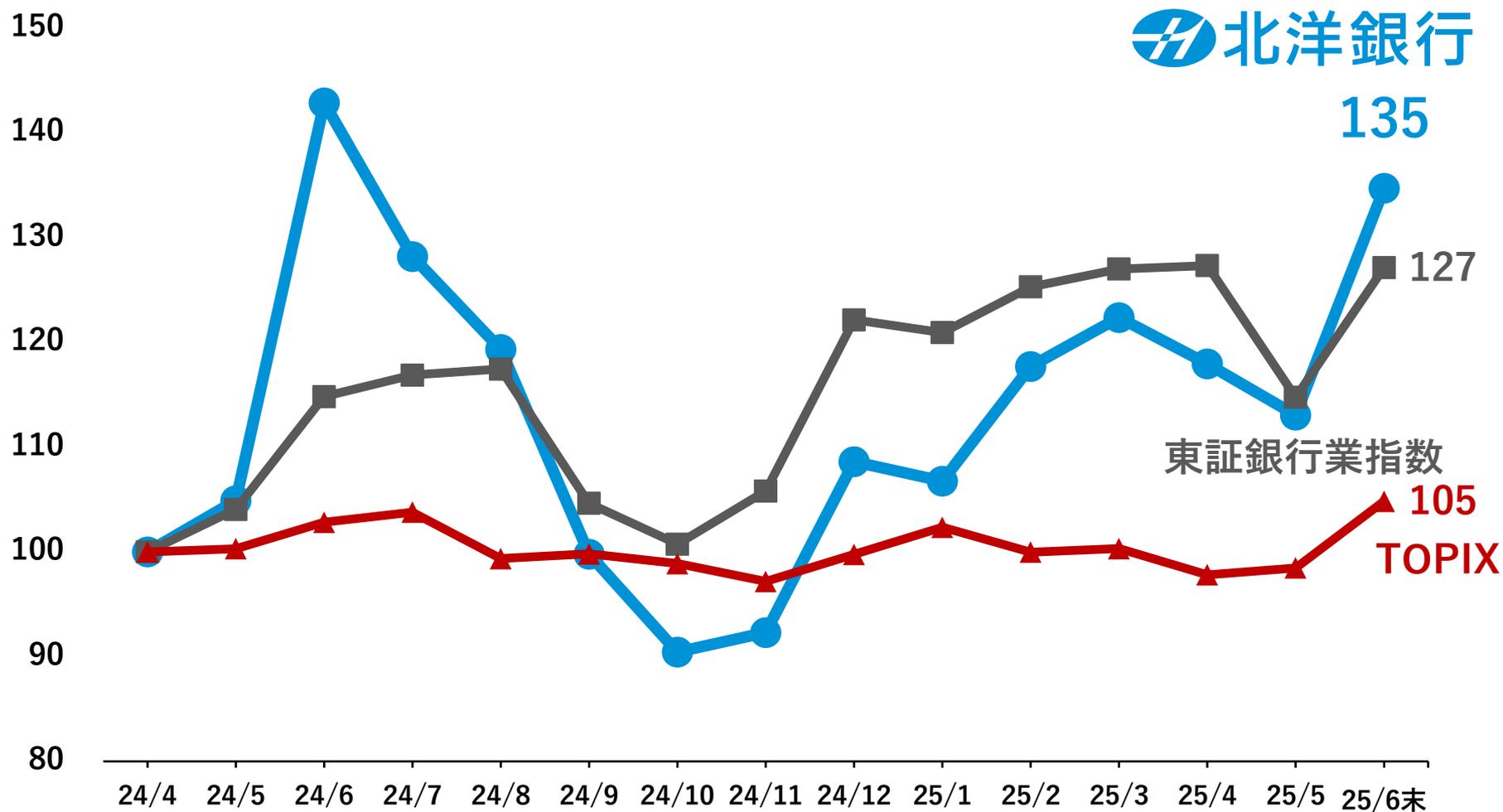
➤ 2025年度は前年度から7.0円の増配予想



4. 株価の状況

足元はTOPIXや東証銀行業指数を上回る推移

■ 各株価の推移 (2024年4月1日株価を100とした場合)



5. 金利上昇の影響

3年累計で資金利益に200億円～300億円程度のプラス影響

運用・調達概略 (2025年3月末残)

貸出金 約7.9兆円 市場連動貸 2.4 短プラ貸 1.2 固定貸※ 4.3 ※固定貸の金利更改残存期間 1年以下 1.6 1年超3年以内 1.3 3年超 1.4	預金 約11.1兆円 流動性預金 9.3 うち無利息 1.9 定期性預金等 1.8
有価証券 約2.6兆円	日銀借入等 約1.7兆円
日銀当座預金等 約2.7兆円 <運用：約13兆円>	<調達：約13兆円>

金利上昇による資金利益への想定影響額

	①政策金利0.75%となった場合 (25年9月+25bps)			②政策金利1.00%となった場合 (25年9月+25bps、26年9月+25bps)		
	FY25	FY26	FY27	FY25	FY26	FY27
貸出金	+38	+103	+115	+38	+141	+218
有価証券	+1	+32	+57	+1	+39	+85
日銀当預等	+34	+67	+67	+34	+101	+134
預金	▲39	▲90	▲93	▲39	▲131	▲184
その他	▲9	▲26	▲32	▲9	▲35	▲55
TOTAL	+25	+85	+115	+25	+116	+198
連結ROE※1	6.7%	7.6%	8.0%	6.7%	8.1%	9.4%
配当シミュレーション※2	28円	33円	36円	28円	35円	42円

(主な前提)

- ・3年以内に発生する貸出・有価証券償還等と同額の新規貸出・投資が行われ、運用・調達バランス(25年3月)が3年間維持される前提。
- ・25年3月の市場金利平均値をベースに、政策金利に対してパラレルにフルスライドした場合の影響額。
- ・預貸追随率については直近利上げ時の実績値をベースに試算。
- ・両パターンとも政策金利0.50%環境下と比較した利上げによる収益影響。ボリューム増加による効果は上記試算に含まれない。

※1 2025年度計画に上記試算による資金利益増加分を加算。B/Sは25/3末基準をベースに利益増加分と、これに伴う外部流出分(実効税率30%、総還元性向50%)のみを考慮
 ※2 総還元性向50%、配当性向40%とし、当行株価580円にて試算

I プロフィール

II 経営成績・株主還元

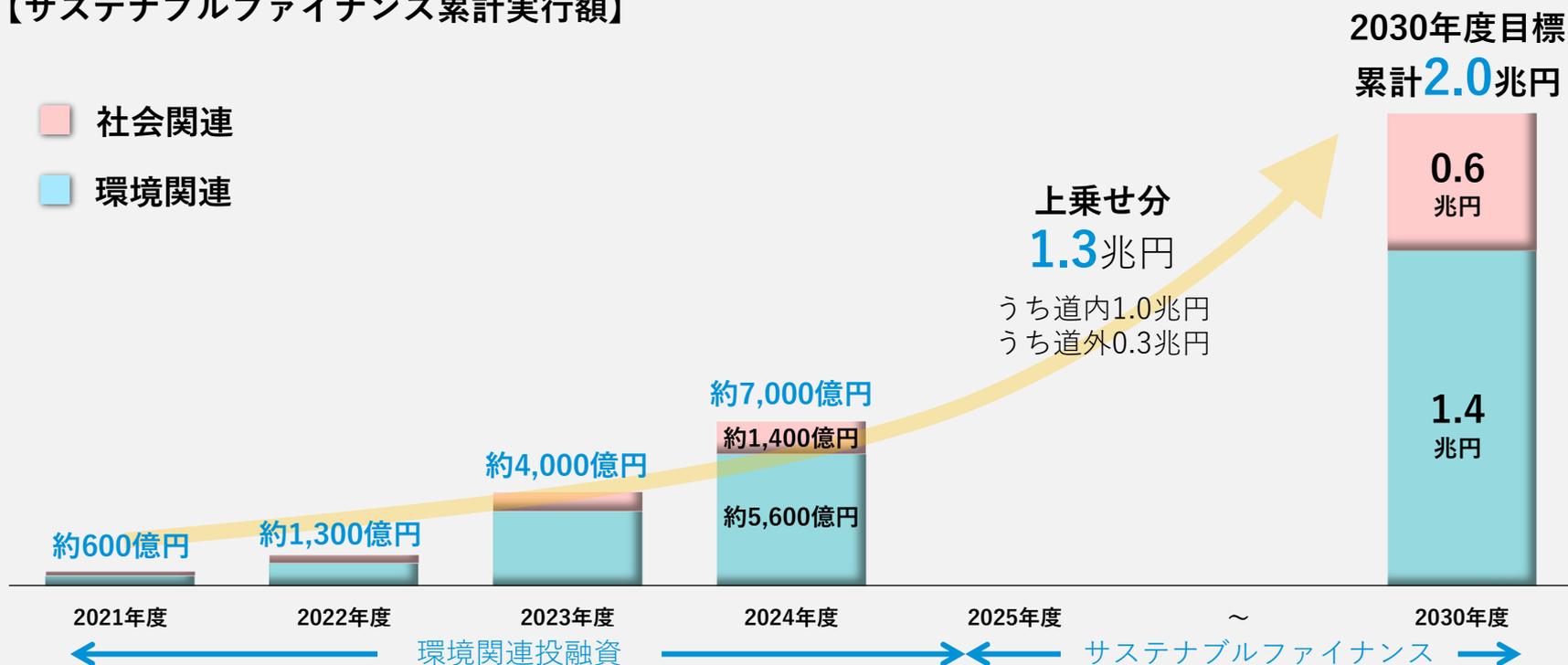
III 企業価値の向上に向けて

1. 北海道のポテンシャル ～ サステナブルファイナンス ～

持続可能な環境・社会の実現に貢献

サステナブルファイナンス（環境関連投融資から名称を変更）

【サステナブルファイナンス累計実行額】



- 2021~2030年度までの環境関連投融資累計実行目標5,000億円は、**2024年度に前倒しで達成**
- これまでの環境関連投融資に、北海道における社会課題への解決に資する投融資※を加え、名称を**サステナブルファイナンス**へ変更。環境関連と同様に過去実績を含め、**新たな目標を2.0兆円に引き上げ**

※ 社会課題への解決に資する投融資とは、半導体関連産業への支援、新産業育成（創業・スタートアップ）、製造業の合理化支援、食・観光への支援強化等

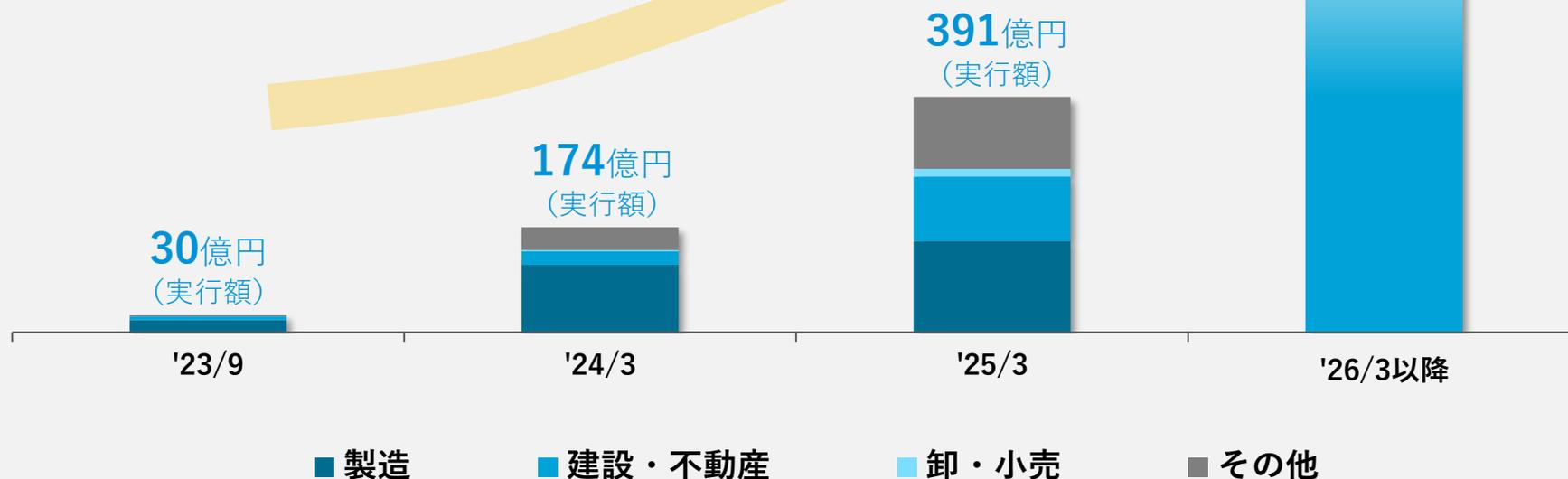
2. 北海道のポテンシャル ～ 次世代半導体 ～

プロジェクトの進捗に合わせて、関連融資の増加を見込む

半導体関連融資の状況（累計ベース）

資金面でも道内外企業を支援

2030年度までに
約**3,000**億円



2. 北海道のポテンシャル ～ 次世代半導体 ～

2025年4月に試作ライン稼働の準備が完了

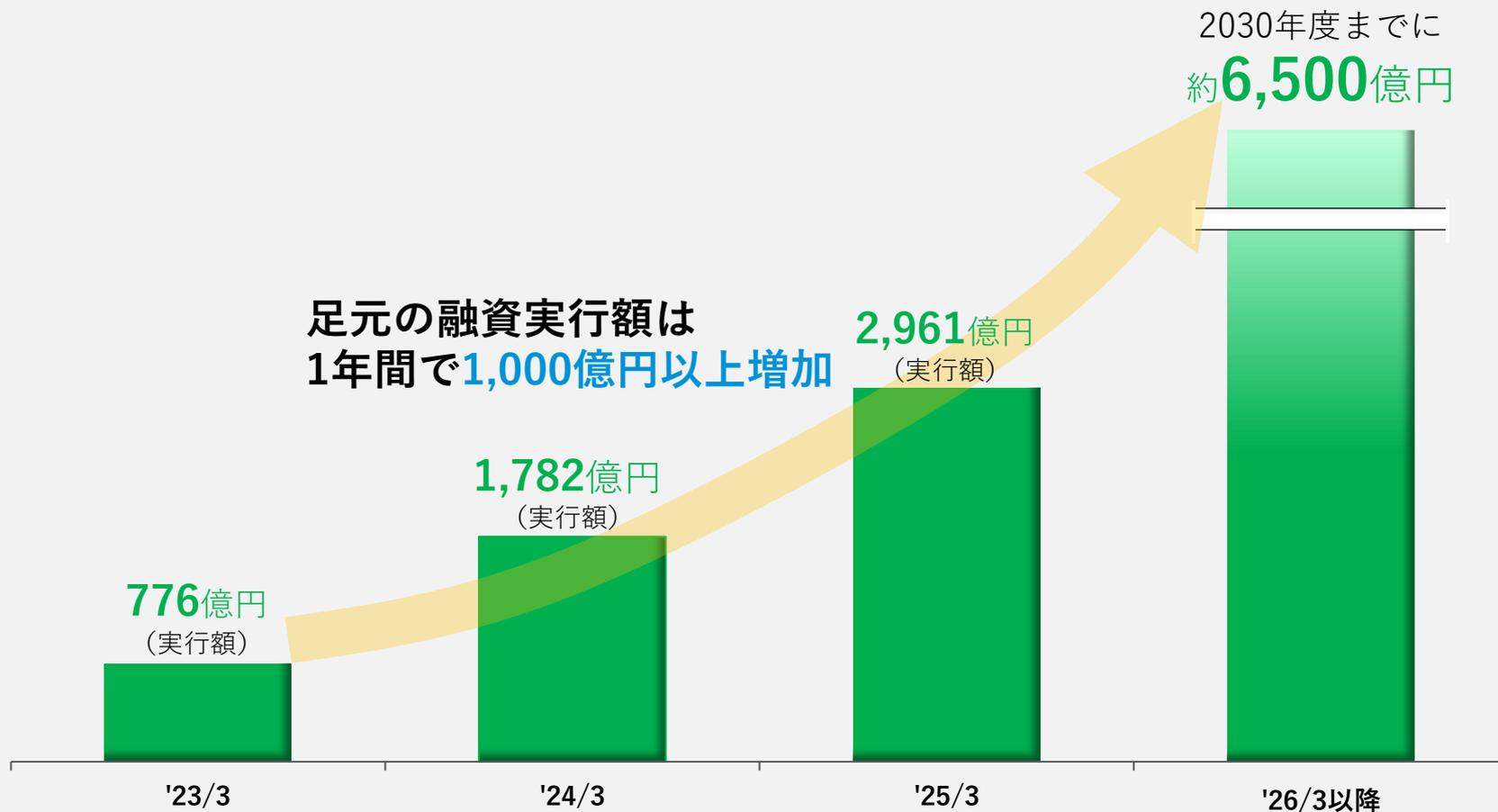
※ 2025年3月撮影時



3. 北海道のポテンシャル ～ GX ～

GX関連に係る融資は大幅に増加

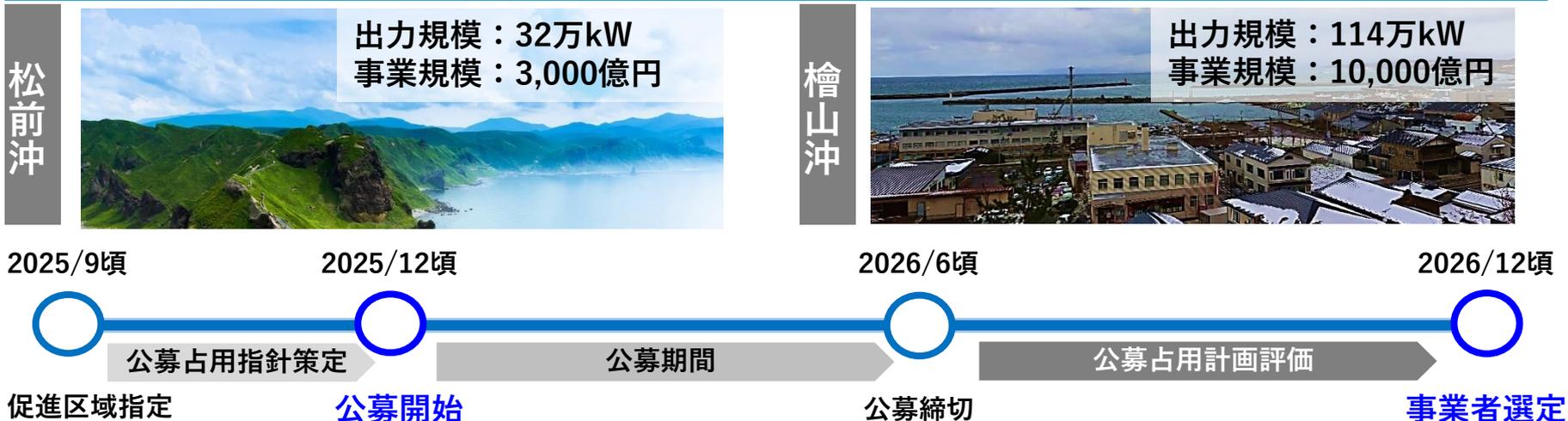
GX関連融資の状況（2021年度からの累計ベース）



3. 北海道のポテンシャル ~ GX ~

道南の複数海域が促進区域に指定 & 事業者公募開始の見込み

対象海域の事業規模・2025年～2026年の想定スケジュール ※ 規模・金額・スケジュールは当行想定



洋上風力発電事業の課題

- メンテナンス人材の不足
- 工事用船舶等の不足
- 電力需要家の確保
- etc

北洋銀行の取り組み



- 出資を通じた事業参画の検討、選定事業者と道内企業とのマッチングを企画
- 洋上風力発電事業の課題に対し、特区メニュー※等を活用した解決策の検討

洋上風力発電事業全体の実効性を高めていく

※銀行による5%超の出資規制の緩和

4. 人事改革

チャレンジし活発に議論できる企業風土へ

ビジネスカジュアルの導入



副業の解禁



5. 自律性の強化

職員の自律性を高める

ビジネスコンテストの開催

表彰式の様子



5. 自律性の強化

地域金融機関として主体性をもって地元貢献

さっぽろ雪まつり 大雪像制作の検討



6. 新人事制度「ポラリス」

人財ポテンシャルを最大限発揮・挑戦する風土を醸成

経営理念・長期ビジョンの実現

人財ポテンシャルの最大限発揮・挑戦する風土の醸成

「五方よし」の実現（お客さま・地域・株主・職員・銀行）

あるべき組織像

職務や転勤を通じた貢献に対する処遇への納得感

挑戦・成長の後押し

多様な人財が自律的にキャリアを選択

あるべき人財像

お客さま本位を通じた当行の企業価値向上の実践

専門性の向上・発揮

自律的な行動・挑戦
定性および定量指標への意識

あるべき姿を実現するための人事制度改革コンセプト

実力本位

年齢を問わない登用

処遇の納得性向上

コース統合
転勤に関する手当の見直し

自律性

業務フィールドの選択
複線型人事

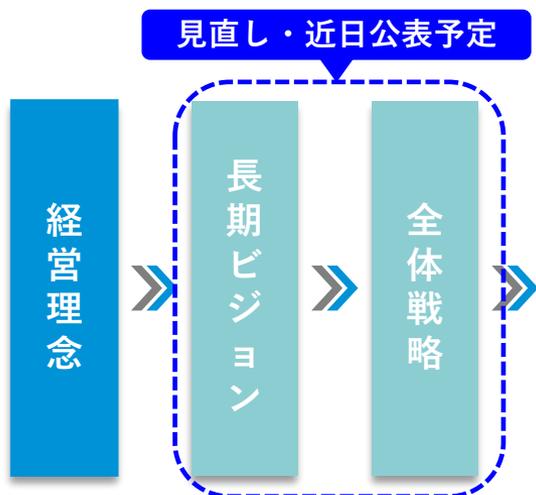
コンセプト実現のベースとなる評価制度

評価項目の刷新（経営理念・行動指針に基づく共通項目・業務毎の専門項目新設）
客観性・多面性を高める「評価会議」新設 考課者研修の内容見直しと継続

7. 長期ビジョン・次期中期経営計画

次期中期経営計画にむけて

次期中計策定プロセス



次期中期経営計画の方向性

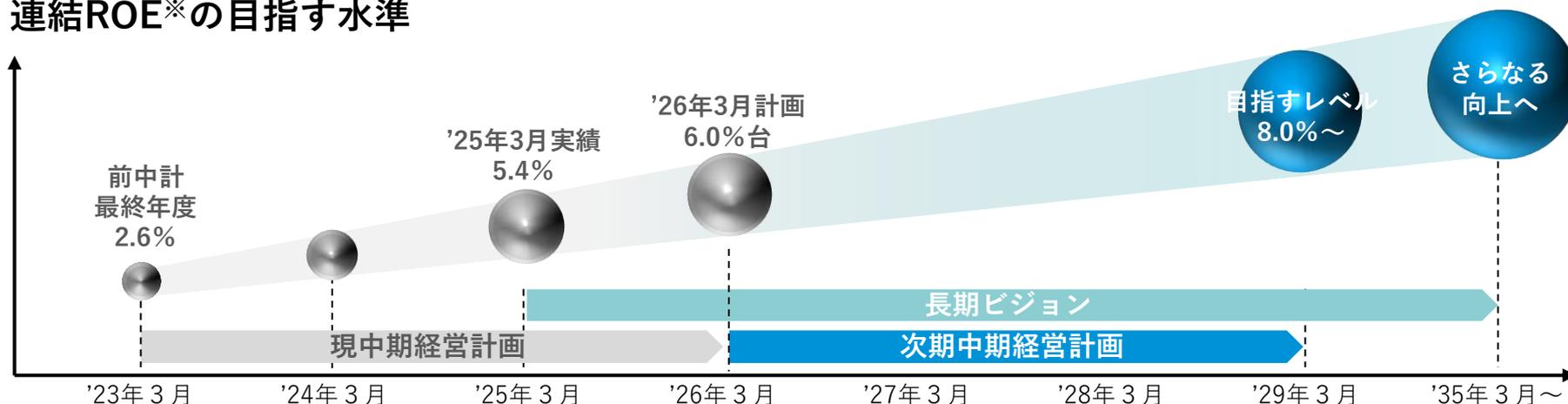
中計期間に目指す姿

ファイナンスに留まらない、北海道の発展と道民の幸せにつながる、あらゆる事業の探索

当行自身とお客さまの徹底したDX化推進

自然の保護と利活用

連結ROE※の目指す水準



8. 今後の新たな取組み ～ 非金融分野への参入 ～

北海道の課題解決に非金融分野で取り組む

北海道共創パートナーズ 外国人材（インドネシア）派遣事業を開始

入学式の様子



【 道内建設業の課題 】

施工管理人材不足

就任後フォロー

入国手続き

ビザ申請

マッチング

教育

人材募集

外国人材
の就労を
一貫支援

人材不足
の課題に
主体的に
対応

8. 今後の新たな取組み ～ 生成AIの活用 ～



生成AIを活用した動画

ご清聴ありがとうございました

